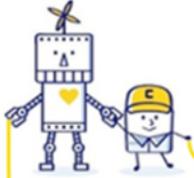


拡張UART通信で5台以上接続する場合について

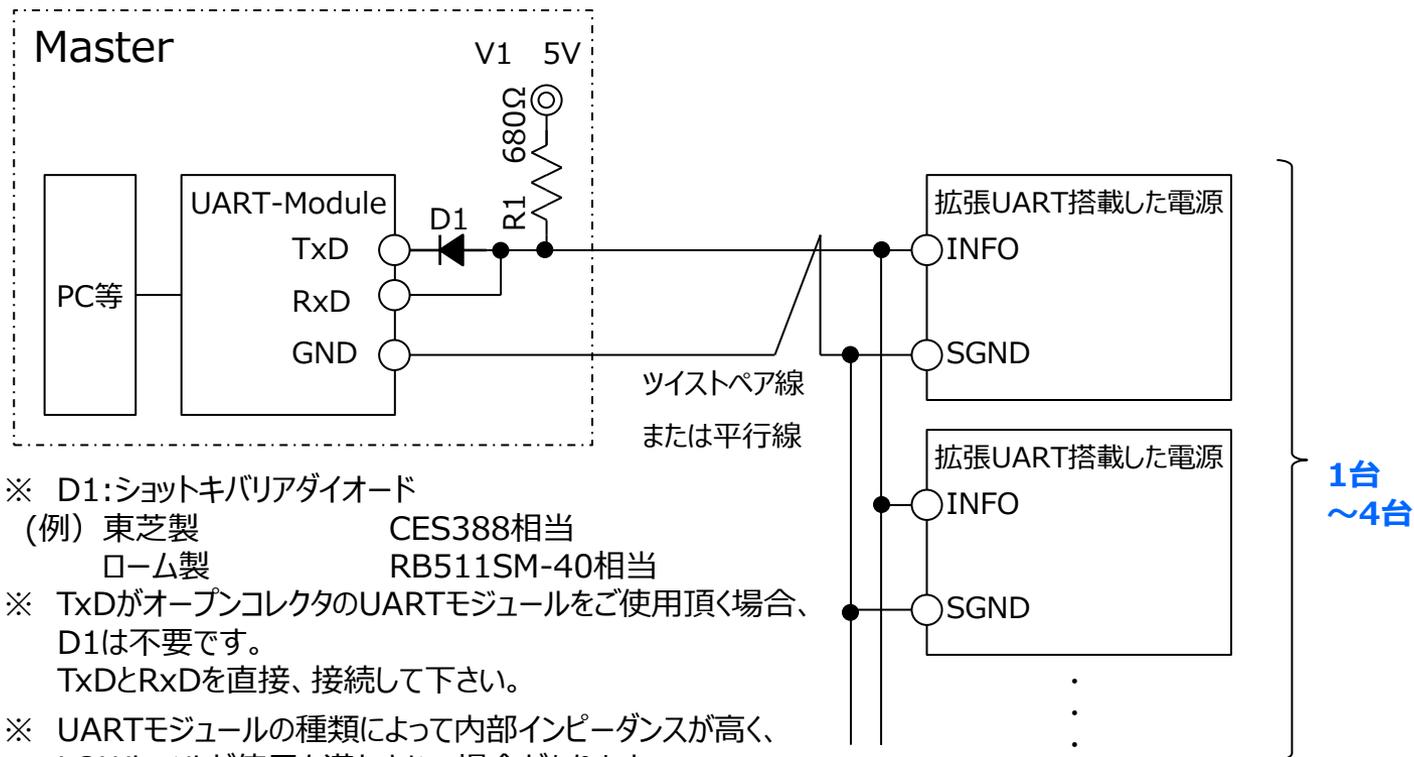




通信マニュアルの接続例(1台～4台)

図1に、1～4台接続時の例を示します。

図1の例では、拡張UARTに**5台以上接続**する場合、INFO端子に流す**電流の不足**により通信ができなくなる可能性があります。

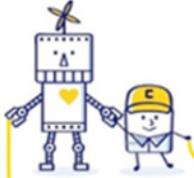


- ※ D1:ショットキバリアダイオード
(例) 東芝製 CES388相当
ローム製 RB511SM-40相当
- ※ TxDがオープンコレクタのUARTモジュールをご使用頂く場合、D1は不要です。
TxDとRxDを直接、接続して下さい。
- ※ UARTモジュールの種類によって内部インピーダンスが高く、LOWレベルが使用を満たさない場合があります。

図1 拡張UART 1～4台接続例

対応案(5台以上接続)を以下に示します。

- 案1 拡張UART通信ラインに接続するプルアップ電圧及び抵抗を変更
- 案2 バッファ回路を追加



・案1 プルアップ電圧、抵抗を変更する例

図2に、プルアップ電圧V1、抵抗R1を変更して5~7台接続時の例を示します。

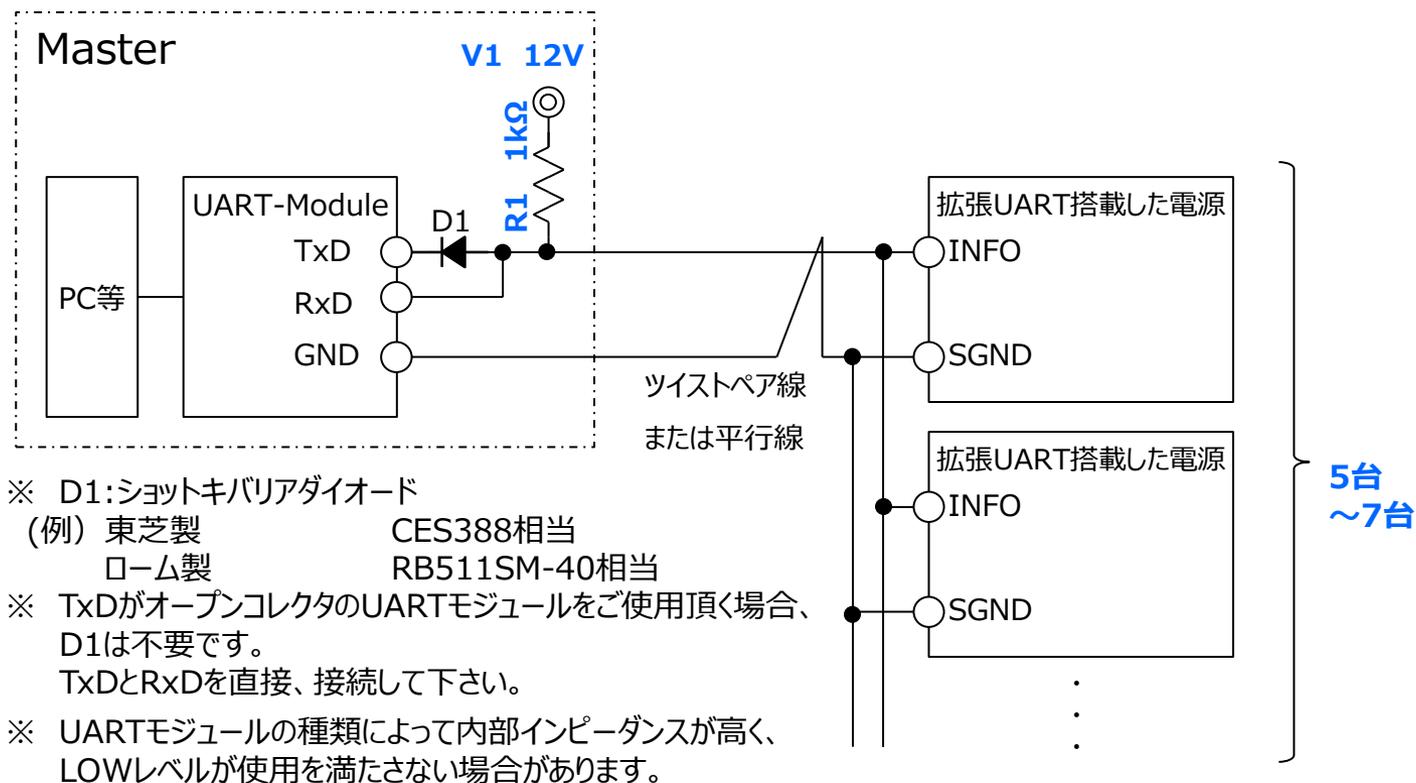
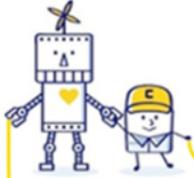


図2 プルアップ電圧、抵抗を変更する場合の拡張UART5~7台接続例

※ 拡張UARTを搭載した電源との(INFO、SGND端子の)接続前にプルアップ電圧を印加すると、INFO端子が上昇して、UART-Moduleに過電圧が印加され、故障する可能性があります。必ず接続した後に、電圧印加するようご注意ください。



・案2 バッファ回路を追加する例

図3に、バッファ回路を追加する例を示します。

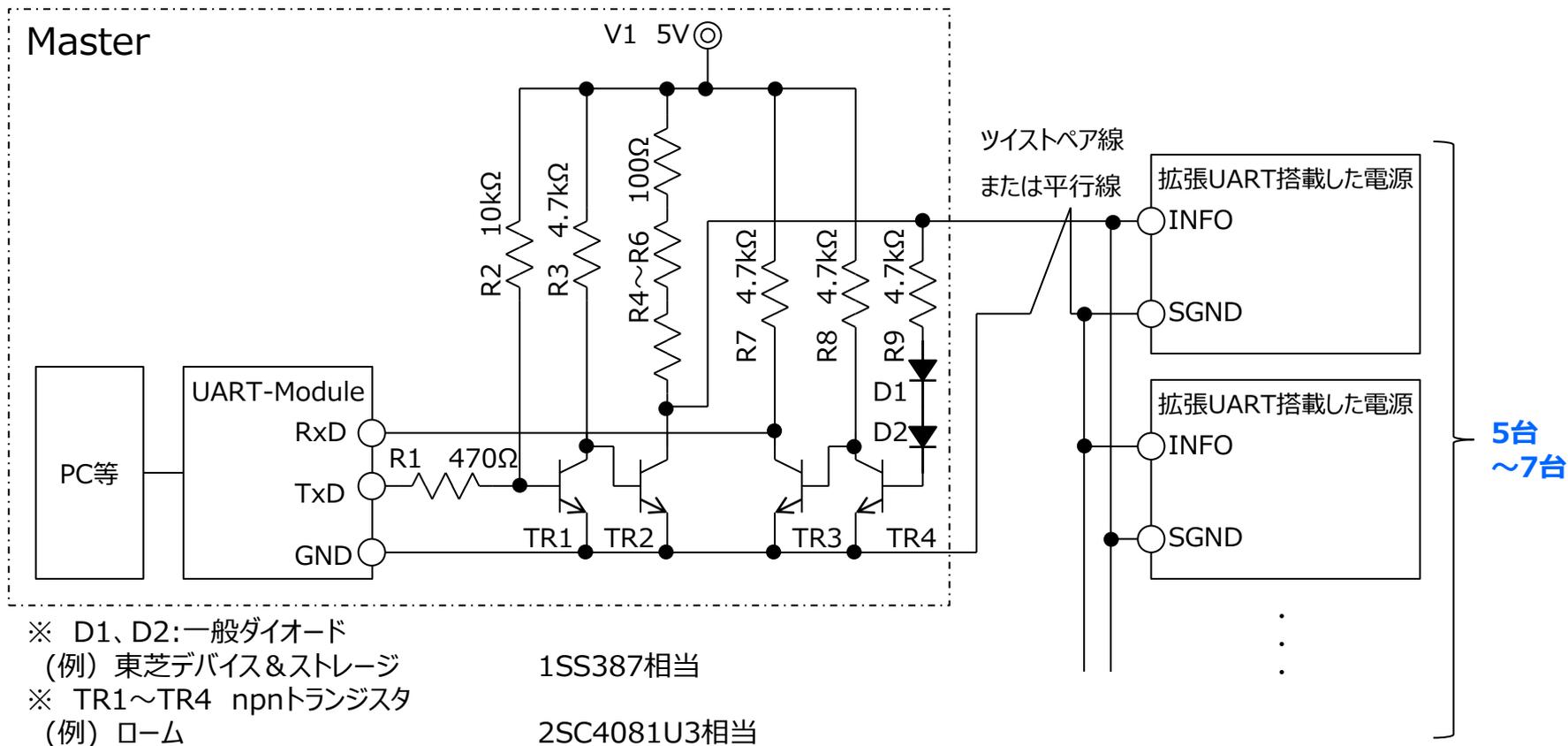
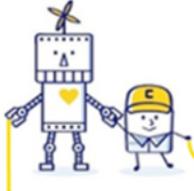


図3 バッファ回路を追加する場合の拡張UART5~7台接続例



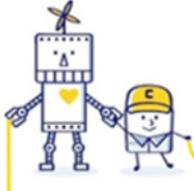


注意

本資料に記載されている内容は本資料発行時点のものであり、製品の仕様変更および改良などのために予告なく変更することがあります。最新版はコーセルのホームページをご確認ください。

本資料の内容につきましては、正確さを期するために万全の注意を払っておりますが、本資料中の誤記や情報の抜け、あるいは、情報の使用に起因する間接障害を含むいかなる損害に対しても、弊社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。





技術お問い合わせ専用ホットライン

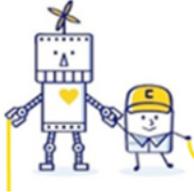
■フリーダイヤル： **0120-52-8151**

営業時間9：00～12：00／13：00～17：00（土曜・日曜・祝日・当社休日を除く）

お問い合わせは「コーセル サポート」で検索

コーセル サポート





COSEL
profile of COSEL CO.,LTD.

『 顧客起点のニーズを捉え、高付加価値製品とサービスの実現を図る 』

